

透明な午后

6631 吉木 登

ある晴れた真冬の昼下り、がらんとした研究室の
中で、 $10^{-4}M$ $Mg(NO_3)_2$ 希硝酸溶液の半分ほど入っ
た50mlメスフラスコをみつめていると、ふと、ある種
の透明感が蘇ってきた。この透明感ほ もう忘れ
かけていた自転車の感覚、それも冬結氷の田畑
のあぜ道をぼんやりとポタっていたときのあの感覚
に近いもの。ぶらりと自転車に乗るのはたいてい
今の自分が何となく嫌になった時だったけれど、
そんな時この透明感が得られればあとしばらくは
何とかやっていけたものだった。今わずらわしい実生
活の中でこんな透明感を感じている自分が少し
だけおかしかった。考えてみれば80年の末から81
年の初めにかけてうかぶるにしろ落ちこむにしろ、
ずいぶんとはしゃぎまわっていたものだ。一度完全に
ふられるという恐怖体験をして、しかもそのあとちょ
っとしたことで今度は気持ちに通じあうというハラハ
ラ時間をくぐりぬけてきた。そしてもう絶対に返し
はしない!と決心したときから、俺にもやっと透明な生
活ができるようになったのだろぅと今思う。日常生
活はあんなかわらぬわずらわしいけれど、そのわずらわし
さを超えたところに存在する“何か”が得られた気がするからである。

(了)

おわび

6631 古木 登

こんな文しか書けなくてごめす。だけど今の気持ちを凝縮して、しかも自転車に關係ずけるとすればこのくらいしか書けないうけで。しかも受けとりようによっては強烈な"のろけ"にもなるし。(自分ではのろけのつもりです)しかし今回の事では大学4年間のプランクを一気に吹き飛ばすほどのリキが出てしまった。全く自分でも不思議な程自分が変わっていくのがわかった。そして一番のポイントは、自分で意識しなかったけれど結果的に、"やさしさ"とか"思いやり"を実践していたこと、振られたあともそれが持続していたことだと思う。何はともあれ、気持ちが通じあっていると感じる時を持つようになってうれしい。

反省

6631 古木 登

しかしマイッタなこりや考えようによっちゃボリやで

合理化

6631 古木 登

まあけど部員として最後のギムは果したわけぞ。

ヤケクソ

6631 古木 登

Sukkiyanen!